



「夏休み校内作品展」を行いました。

5日(火)～6日(水)の2日間、管理棟2階、理科室と家庭科室を使って、「夏休み校内作品展」を開催しました。多くの保護者の皆様に子どもたちの作品を鑑賞していただきました。ありがとうございました。

展示作品を見てみると、子どもたちが作品1つひとつを丁寧に仕上げていて、工作物にしても発表資料にしても力作の作品が多かったです。地域の古墳時代や青木川古墳群について調べたり、地域のAED設置場所について調べたりしている子がいました。また、四日市市茶業振興センターの講座に親子で出かけ、そこで体験したり聞いたりして、わかったことをまとめている子もいました。



夏休みの作品制作には、お忙しい中、保護者の皆様がしっかりと子どもに関わっていただいた様子が感じ取れました。何気ないひと時の関わりかもしれませんが、子どもたちはそんな保護者の姿を嬉しく思っていたに違いありません。2学期は運動会、修学旅行、社会見学、授業参観+文化祭等、多くの行事が控えています。お忙しいとは思いますが、子どもたちへの丁寧な関わりを、引き続きよろしくお願いします。

第2回避難訓練を行いました。

9月8日(金)、1限目に避難訓練を行いました。今回は『震度5強から6弱の地震の発生により給食室から出火した』という想定でした。地震が起きたら「本棚テレビ等倒れてきそうな物から離れる」「窓や蛍光灯、ドア等、ガラス使用の物から離れる」「落ちてきた物から頭部を保護する」といったことが大切です。第1回避難訓練の反省から『私語なく避難する』ことも訓練の重点課題でした。



今回の訓練では、各教室で2列に並び、「おさない・走らない・しゃべらない・もどらない」の約束を守り、迅速に一次避難場所の運動場南側へと移動している子どもたちの姿がありました。避難開始から3分強で最後の点呼を済ませることができ、1学期の訓練と比べると、1分ほど短縮してスムーズに避難することができました。

1923年(大正12年)9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される地震が発生しました。この地震によって生じた災害は「関東大震災」と呼ばれ、死者・行方不明者は、推定10万5千人にものぼりました。今年は、その震災からちょうど100年目を迎えました。

東海地方においては、南海トラフ地震(駿河湾から静岡県の内陸部を想定震源域とするマグニチュード8クラスの地震)の切迫性が高まっていると言われています。今日のように、いつ地震が来てもスムーズに動けるように、子どもたち教職員共に意識していければと思います。

交通安全「止まる・見る・待つ」の実践を！！

三重県では、今年に入って交通死亡事故が増加しています。水沢地区の道路は見通しもよく、つつい自動車ガスピードを上げがちです。今年4月からは、自転車のヘルメット着用も努力義務化されました。特に交差点やヘルメットを着用していない交通死亡事故の事案が多く報告されています。自分の命は自分で守るという意識を持って、「自転車に乗るときはヘルメットをかぶる」「とびださない」の徹底を、ご家庭でもお願いします。三重県交通安全研修センターから、交通事故にあわないために、下記のような実践をすることが求められています。

「止まる」…道路を横断するときや、交差点では必ず止まる。

「見る」…道路を横断する前に車が来ないか、左右の安全確認をする。

「待つ」…近づいてくる車があれば、通り過ぎるまで待つ。

令和6年度就学援助の申請について



9月1日(金)に Home & School で保護者の皆様宛にお知らせ文が配布されていますが、「令和6年度就学援助の申請」の提出締切が10月31日(月)となっています。継続される方も毎年申請することが必要となっています。申請をお忘れにならないように、再度 Home & School 等で内容のご確認をお願いします。(文責 北住 昌文)